

宮城県気仙沼市（国内 16 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要

令和 4 年 11 月 24 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は山地と平地の境界部に位置し、周囲を森林や水田等に囲まれていたほか、その周りには民家も存在していた。
- ② 当該農場周囲には、複数のため池が確認された。
- ③ 調査時、当該農場から約 140m 離れているため池でカモ類 1 羽、農場から約 1 km 離れているため池で、オオハクチョウ 9 羽のほか、カモ類 49 羽（ホシハジロ及びキンクロハジロ各 18 羽、マガモ 10 羽等）が確認された。
- ④ 当該農場は開放鶏舎 3 棟からなり、発生時は全棟で肉用鶏が飼養されていた。
- ⑤ 当該農場は、高速道路を挟み、発生鶏舎を含む西側のエリアと、鶏舎 2 棟を含む東側のエリアに分かれていた。各エリアは公道を通じて行き来されていた。

2 通報までの経緯

- ① 農場によると、発生鶏舎（通報時 42 日齢）では、通常 1 日当たりの死亡鶏は 1～2 羽程度であったとのこと。11 月 19 日の死亡羽数は 20 羽だったが換気不良と考え、発生鶏舎のロールカーテンを開けたとのこと。20 日の死亡羽数は 40 羽で換気不良を疑い、21 日は 200 羽となったが換気のための寒冷感作を疑っていたとのこと。22 日に 1000 羽以上死亡したことから、家畜保健衛生所に通報したとのこと。
- ② 発生鶏舎は農場の西側のエリアに位置していた。死亡鶏は鶏舎内全体に散在していたとのこと。
- ③ 疫学調査時には、発生鶏舎全体で死亡鶏や衰弱等の異状を呈する鶏を確認した。発生鶏舎以外の鶏舎では特筆すべき異状は認められなかった。

3 管理人及び従業員

- ① 農場の作業従事者は農場主を含む 2 名であり、日常的な飼養管理は、主に農場主が行なっているとのこと。
- ② 鶏舎ごとの担当は決まっていなかった。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 農場各エリアでは入口ゲート、柵等による衛生管理区域の区分はされておらず、入口に車両消毒設備は設置されていなかった。
- ② 農場主によると、公道でつながる 2 つのエリア間の移動には農場の車両を使用しているが、各エリアに進入する際に車両の消毒は実施していないとのこと。
- ④ 農場主によると、作業従事者は、自宅から作業着及び長靴を着用した状態で鶏舎に向かい、衛生管理区域に入る際に長靴の交換は衣服・靴の交換及び手指消毒は実施していなかったとのこと。鶏舎に入る際には、持参した消毒スプレーで手指消毒を実施するが、鶏舎専用長靴への履き替えは行なっていなかったとのこと。
- ⑤ 3 鶏舎のうち、発生鶏舎を含む 2 鶏舎では踏込み消毒槽を前室に設置していたが、農場主によると、鶏舎内作業のために、踏込み消毒槽が設置されていない鶏舎側面の出入口から出入りすることもあるとのこと。
- ⑥ 農場主によると、日常的に農場に立ち入る飼料運搬業者及びガス業者は、持参した消毒液で各自車両消毒を実施しているはずだが、衣服・靴の交換は不明とのこと。
- ⑦ 発生鶏舎の側面の壁には、内側に金網、外側には上下 2 段のロールカーテンが設置されていた。自然換気を行い、ロールカーテンを開閉することにより温度及び換気量を調節しているとのこと。

- ⑧ 発生鶏舎側面の壁の金網には多数の破損箇所があった。また、発生鶏舎側面の壁のうち、北側には金網及びロールカーテンの破損箇所ですべての鶏舎の柱の間に間隙があり、野生動物の侵入が可能と考えられた。
- ⑨ 鶏舎横の飼料タンク上部には蓋が設置されており、全ての鶏舎で鶏舎内のラインを通じて自動給餌を行っていた。
- ⑩ 飼養鶏への給与水は地下水を利用しており、消毒は実施していないとのこと。ポンプで汲み上げた水は各鶏舎前室上部の水槽に貯水され、水槽から鶏舎内に給水していた。水槽に蓋は設置されていなかった。
- ⑪ 通常、数日かけてオールイン・オールアウトを行っており、オールアウト後は鶏舎内の除糞と清掃・消毒を行い、空舎期間は20日程度設けていたとのこと。
- ⑫ 鶏糞は、オールアウト後、農場の鶏糞用運搬車で近隣の共同堆肥処理施設に運搬しているとのこと。
- ⑬ 直近のオールアウト及び鶏糞の運び出しは1か月以上前だったとのこと。
- ⑭ 死亡鶏は、毎日の健康観察時に回収し、袋に入れて発生鶏舎北側の空き地に運搬し、古い堆肥をかぶせて発酵処理していたとのこと。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 農場内では時折キツネ、タヌキを見かけるとのこと。調査時には、鶏舎の屋根に群れていたスズメ34羽、農場敷地上空を飛翔していたハシブトガラス、農場周辺のため池でカモ類を確認した。また、発生鶏舎の北側斜面の草地及び東側の草藪に、中型哺乳動物の獣道と思われる痕跡を確認した。
- ② 農場主によると、2年前には発生鶏舎にネコが侵入したことがあるとのこと。また、鶏舎内ではネズミをよく見かけ、ネズミ対策として粘着シートを設置しているとのこと。調査時、発生鶏舎内では、ネズミによるものと思われるかじり跡や、ネズミのものと思われる糞を確認した。

(以上)